

コーポレート・ガバナンス体制

現在、当社グループでは経営の重要事項について、経営政策機関として経営政策会を随時開催し、グループの経営上の重要事項を決議するとともに、毎月1回定期的に開催している取締役会において、経営に関する重要事項を審議・決定させていただいております。

今後、不確実性の環境変化のなかで、中長期的な収益性と生産性を高めていくためには、これまでのビジネスの仕方を超えた仕組みづくりも必要になってくると考えております。

そこで私たちは、持続的な成長と公正かつ透明な企業活動を行っていくために、現行のコーポレート・ガバナンス体制を見直し、コーポレート・ガバナンス基本方針を新たに制定させていただき、企業価値の向上に努めてまいります。



ハルナビバレッジ（株）
常務取締役
栗原 健一

ハルナグループ コーポレートガバナンスに関する基本方針

●コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

ハルナグループは、「創業の精神」「企業理念」「ハルナグループ企業行動指針」に基づき、持続的な成長と企業価値の向上を図るとともに、公正かつ透明な企業活動を行うために、権限と責任を明確にした意思決定とこれを監視、評価する体制を整備し、より良いコーポレート・ガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組むこととする。

①ハルナグループは、株主およびお客様、社員、取引先、地域社会等のステークホルダーの皆様との間において、良好な関係を維持するとともに企業としての社会的責任を果たすためコーポレート・ガバナンスの充実に努める。

②ハルナグループは、財務情報等の会社情報の適切な開示を通じて、企業経営の透明性確保に努めるとともに、コーポレート・ガバナンスを創造的に進化させ、企業価値の向上に努める。

●経営理念・ビジョン

ハルナグループの役員・社員は下記の経営理念およびビジョンを共有し、実現に向けて継続的に取り組むこととする。

■経営理念

顧客志向を経営の核として

顧客評価に値する品質とは何かを問い

顧客思考を超える製造とは何かを考え

顧客歓喜の果実を己の収穫とする

■ハルナグループの目指す姿

・独創性ある飲料プロデューサーとして、ステークホルダーの皆様から大いなる期待と満足を得られる企業へ

・顧客満足度最高レベルに向けて・ステークホルダー皆様の幸せに向けて

・利益を伴う持続的成長に向けて

ハルナグループはビジョンに掲げた理念の実践のため、ハルナグループ企業行動指針に基づき法令遵守、社会倫理の遵守を全ての役員・社員の行動規範とする。

社外取締役からのメッセージ

須齋 嵩 氏

早稲田大学理工学部卒業後、三菱重工業株式会社、三洋電機株式会社で開発から海外事業まで事業経営責任者。中国にて会社を設立、中国大連三洋空調公司董事長、他董事を歴任。



コーポレート・ガバナンス一考

組織は、責任と権限のバランスの上に構築されています。時には、責任が明確に問われない権力構造を生み出してしまいます。最近、老舗の大手電機メーカーや自動車メーカーの不祥事も力による独走に由来すると思っています。

根源的に人間は弱く、バイアス（認知の偏り）が存在します。避けて通れない険しい道だと解っていても、避けて易きに流れる傾向がある。人が構成する組織も、常に自己規律を維持できなくなる脆さを孕んでいます。

ガバナンスとは、その脆さを補強し、企業の永続性と価値を高めることです。シンプルに考えれば、必要なルールを守り、実践する仕組みであると思います。前向きな方策は、モチベーションが高くなる反面、モラルハザード、管理リスク、技術リスク等のネガティブなリスクを常に念頭に入れておくことが必須です。また、(1) 難しい将来の予測可能な事と想定外の事の線引きをする。(2) リスクの“気づき”や“感性”を持つ。(3) “全体を俯瞰できる”リスク感度が高い、企業風土・文化の組織を創生することだと思います。

当社は、常に社員とコミュニケーションを取りながら、事業活動し、社員育成をされている企業と思っています。

岡 俊明 氏

甲南大学経営学部卒業後、サッポロビール株式会社入社。2004年サッポロビール飲料株式会社代表取締役社長就任。群馬大学客員教授。長岡大学経済学部教授を歴任。現在は大妻学院理事、日本マス・コミュニケーション学会会員でもある。



ハルナグループとコーポレート・ガバナンス

ハルナグループは新たな20年に向け、CEOの若返りと大胆な組織改革を断行。近い将来の上場計画を打ち出す等、高品質企業を目指しスタートを切ったところであります。株式上場は少なくとも、会社の成長性を促す経営戦略であります。

ここで重要なのは、上場に向けての準備段階それそのものが会社を強く、逞しくする経営戦略ということです。上場に向けての内部体制の強化、組織自体より収益の出せる体制に変革していく。すなわち、コーポレート・ガバナンスをしっかり取り組むことに他なりません。

コーポレート・ガバナンスは企業の不正行為の抑止と企業の収益力を高め、中長期にわたり企業価値を高める仕組みと訳されております。当社は早くから四半期報告会を開催する等、情報開示と透明性は社外取締役から見ても申し分なく、模範となる企業と言っても過言ではありません。

後は「稼ぐ力」をどう強化するか。企業の独自性とキャッシュフローの安定性が頑健な企業をどう構築するか、未来のROE、ROAをどう作るか。容易なことではありませんが、これらのコーポレート・ガバナンス改善に向け、何より不可欠なことは「経営の強い意志」であると確信しております。

非常勤取締役からのメッセージ



小出 信介 氏

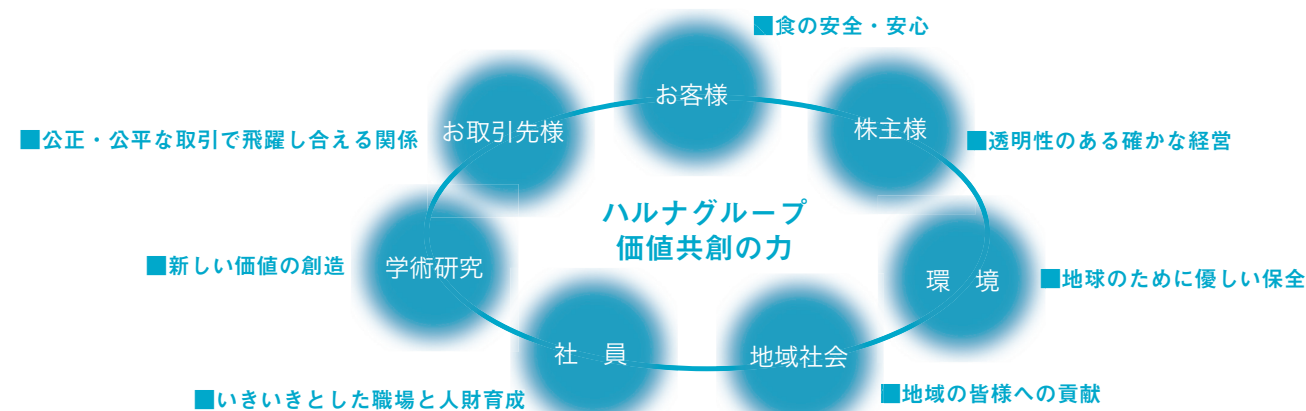
慶應義塾大学法学部法律学科卒業。1996年、ハルナビパレッジ（株）創業に参画。2006～2010年、ハルナビパレッジ（株）代表取締役。現在は、小出公認会計士・税理士事務所代表（公認会計士・税理士）、明光監査法人代表社員。また、社外役員として、ハルナビパレッジ（株）非常勤取締役、榛原鰻販売（株）非常勤取締役、（株）INGS 監査役など、多くの会社の社外役員を務めるとともに、公認会計士・税理士として約150社の顧問税理士を務めている。

持続的な利益成長のために

前期は創業20周年を迎えた中で、構造改革をしっかりと行っていく、との方針を示し、業績としては、過去最高の営業利益、経常利益を計上した一年になりました。

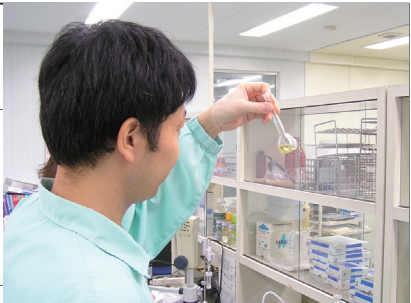
利益を計上できた要因は、主として2つあると思います。ひとつは商品内容・販売動向を精緻に分析し、商品価値を上げるバリューアップを的確に行い、それが特に閑散期の受注につながったこと。もうひとつは、エネルギーコストの様々な見直し、および重油価格の低下による稼働コストの減少です。これらの要因により、前期は全ての四半期で黒字を計上することができています。

利益を伴った持続的な成長のためには、継続的に利益を向上させる、ある種のドライバー・牽引力が必要になると思います。来期は和歌山地区での小型設備導入に期待ができますが、その先を見据えて、構造改革、新拠点・M&Aの着眼、海外拠点の着実な展開などを、しっかりと進めていただければと思っています。



ウェルネスサイエンス研究所

近年、健康と安全がより一層求められるなか、科学的研究や品質管理技術を礎として健康・ライフサイエンス分野の事業「ウェルネスサイエンス研究所」を2007年に設立しました。科学的な根拠による裏付けと徹底した品質管理に支えられた商品を創造し、安心・安全、ユニークな商品を私たちがお届けできることで、人々が安心して健やかで笑顔ある生活を送れることを願い、日々前進を続けていきます。

■創 業	2007年4月1日	
■所在地	〒370-3531 群馬県高崎市足門町39-3 TEL：027-372-1230 FAX：027-372-1255	
■事業内容	機能性原料の製品化設計・試作 機能性素材・原料の研究開発 機能性分析と解析	
■役 員	理事長 青木 清志 所 長 池永 裕	

所長 池永 裕

公立大学法人前橋工科大学工学部生物工学科元教授
国立大学群馬大学工学部生物工学研究科元客員教授
東京大学理学部生物化学科卒業。東京大学大学院理学研究科生物化学修士。
九州大学農学博士取得。

【主な研究経歴】

- ビール製造副産物の有効利用：酵母、麦芽根、麦汁絞り粕など
 - 酵母細胞壁由来グルカンの制癌剤としての開発
 - タンパク質精製・性質決定・遺伝子工学を利用した医薬品探索・生産・複合糖質研究（通産省プロジェクト：複合糖質生産利用技術参加）
 - バイオリアクター開発（ラジアルフローリアクター）
 - マリンバイオテクノロジー（応用微生物研究）、海の資源を活用した新産業創出
 - 前橋工科大学では応用微生物学研究（微生物を利用した環境浄化、セルラーストック探索、新奇清酒酵母開発：変異株の遺伝子発現解析）
- 【著書】『遺伝子操作実験マニュアル』（高木康敬編、講談社、分担執筆）
【共著】『複合微生物系の産業利用と新産業創出』『複合微生物系の新展開と循環型社会構築』（シーエムシー出版、誌上討論会分担）

～メッセージ～

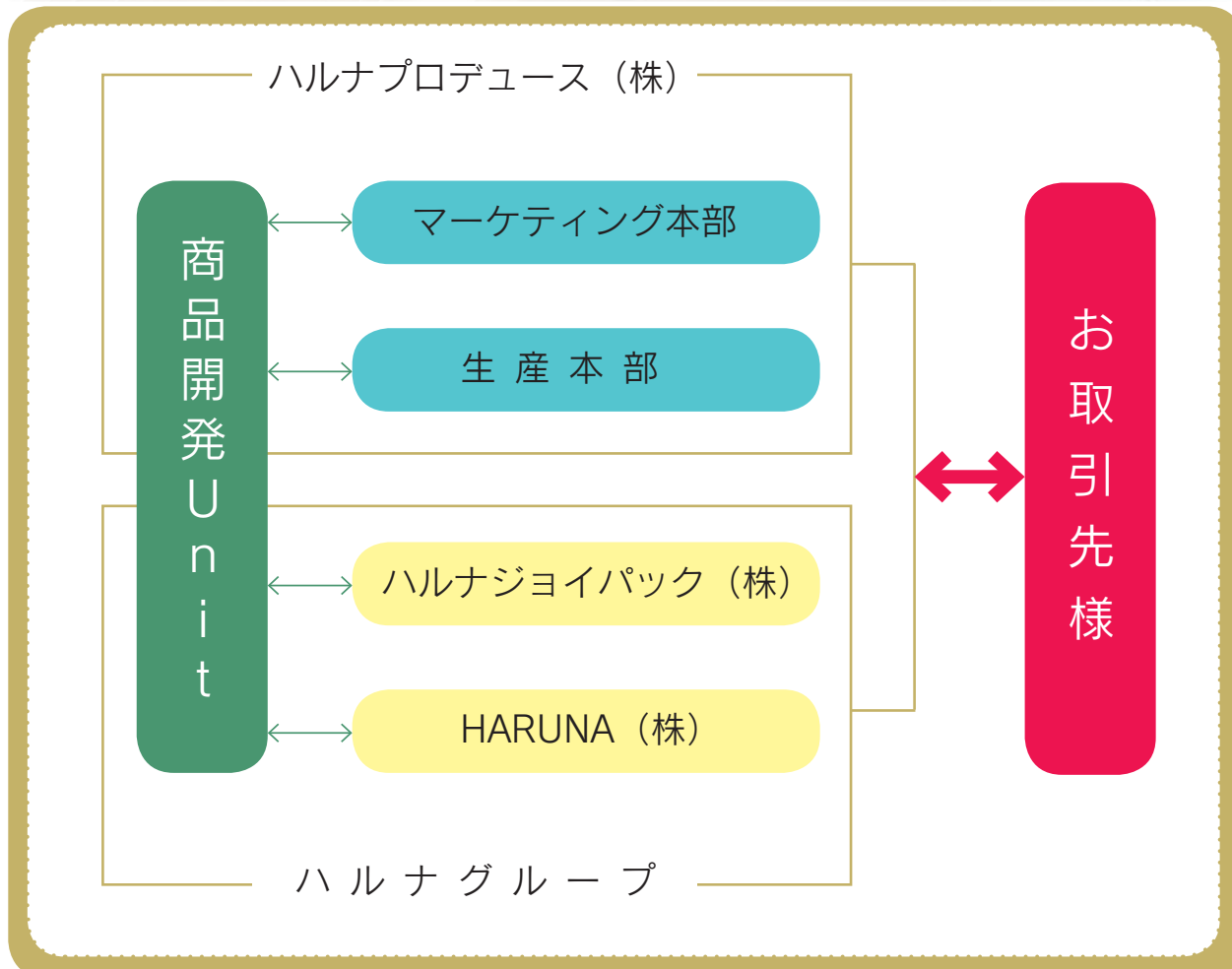
明日のハルナグループの発展を「技術で支える」ウェルネスサイエンス研究所は、今年新たな要員を加えその活動を広げてまいります。少子高齢化社会の日本、新たに発展しつつあるアジア諸国それぞれのお客様のニーズを的確に捉え、今後望まれる商品の基盤となる技術を創製します。新たな機能性飲料素材探索を核にお客様に喜ばれる新規飲料素材を提供してまいります。そのため医学・薬学の専門分野のアドバイザーからの助力もいただき、大学や公的研究機関との共同研究にも力を入れてまいります。また、安全・安心の製品を提供するため必要な分析・解析技術も整備してまいります。

所長 池永 裕

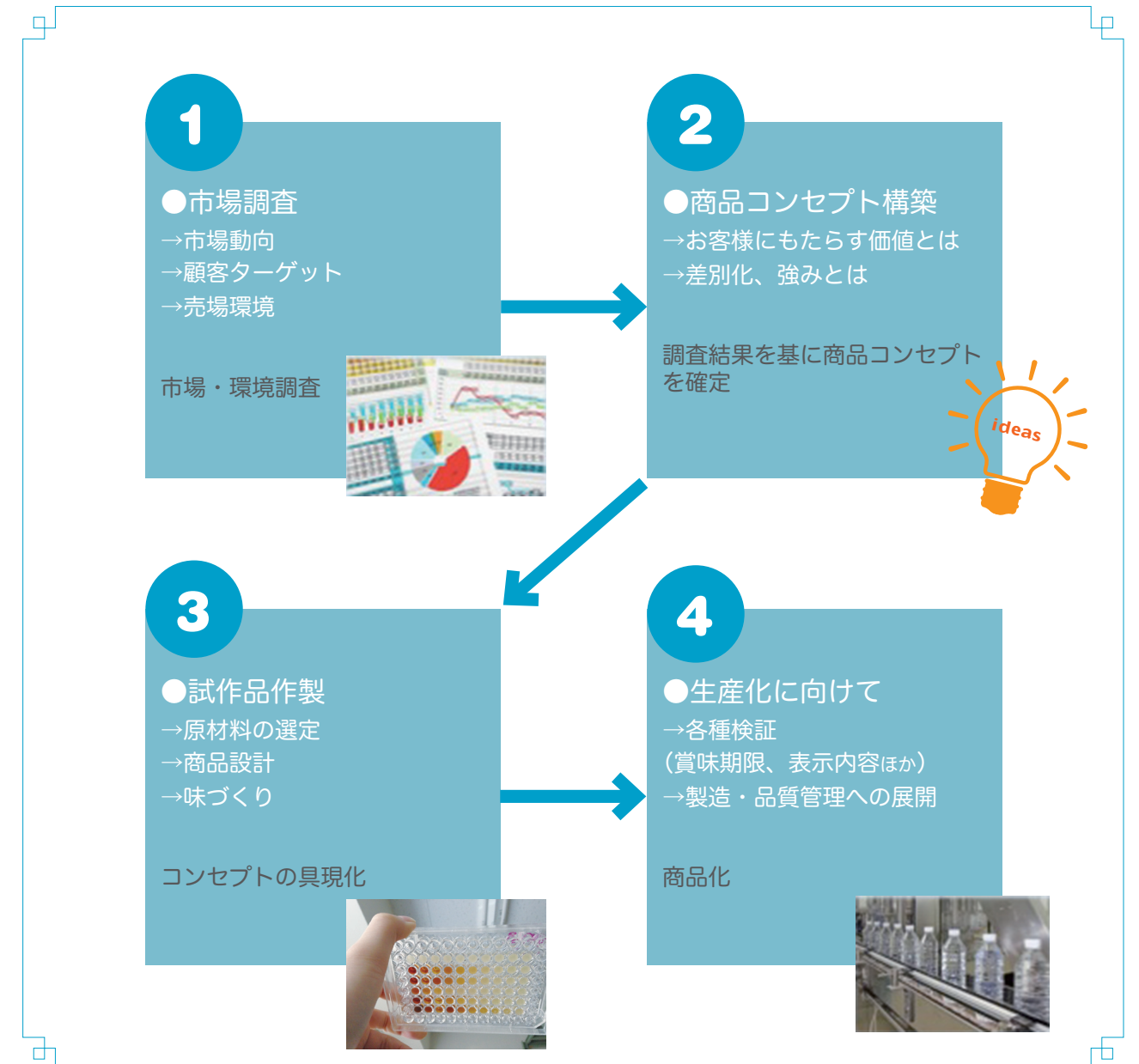
商品開発



今年度、商品開発 Unit は、ハルナビパレッジ株式会社からハルナプロデュース株式会社に移行いたしました。マーケティング本部（購買・営業）、生産本部（製造・品質）と、より業務を横断して対応できる環境となることで、チーム一丸となって「お客様目線での新たな価値ある商品の創出」に取り組んでいます。



商品開発の流れ～市場調査から生産まで～



様々な調査結果をもとに、

- ① お客様が求めているものは何か
- ② 本当に飲みたい・食べたいと思うものは何か
- ③ 潜在ニーズはないか

を考えながらコンセプトの構築が始まります。

そこから導き出されたコンセプトに沿って、原材料の選定・配合組み立てを開始。生産・品質に至るまでの問題点・懸念点の洗い出しをしながら試行錯誤を繰り返し、理想とする商品をお客様にお届けしています。



環境経営

ハルナグループでは、「環境」を経営上の重要な項目の一つとして、より効率的なエネルギーの利用、産業廃棄物の排出量削減、社会貢献活動を含めた環境経営の活動を積極的に進めております。

現在、地球上では気候変動などの環境問題や公害などが大きな問題になっています。ハルナグループでは、地球温暖化に関するエネルギー利用の改善は重要な課題と位置づけ、環境への負荷低減の考えから、ボイラー燃料を重油からLNGや都市ガスへ燃料転換しました。

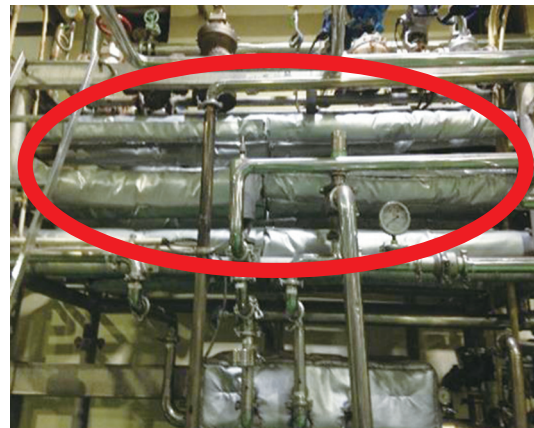
また、エネルギー使用量の削減への取り組みも積極的に進め、より効率的なボイラー運転への改善、熱源からの放熱ロス削減対策、生産設備の運転効率化による電力使用量の削減、高効率な電力機器への更新などを行っています。

このように環境に配慮した生産活動の推進に向け、社員一丸となって取り組んでおります。

2015年度に行った主なエネルギー使用改善対策の取り組み

・熱源の放熱ロス削減対策

蒸気利用効率の向上のために、熱源に保温カバーを取り付けた省エネ対策



・廃熱の有効利用によるエネルギー使用量の削減

純水装置に熱交換器を追加し、蒸気使用量削減とボイラー廃熱を利用し燃料使用量の削減

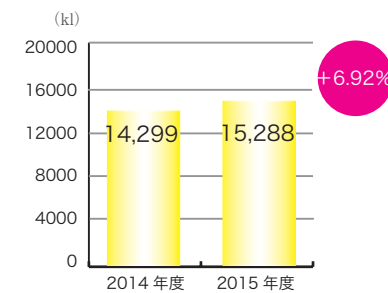


環境会計 2015年度の実績

※ HP・HJのプラントの合計値です。

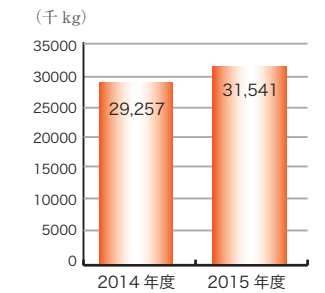
インプット

エネルギー原油換算 電力・LNG・都市ガス・灯油

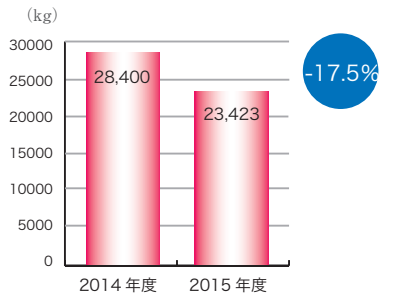


アウトプット

二酸化炭素 (CO2)

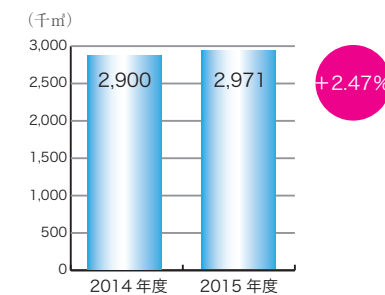


窒素酸化物 (NOx)

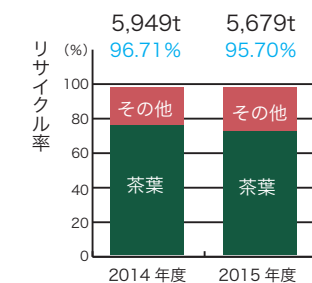


製造

水資源

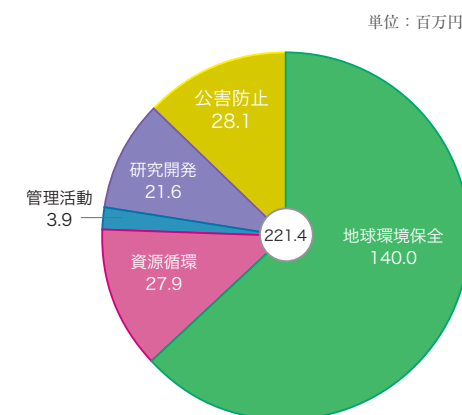


排出物

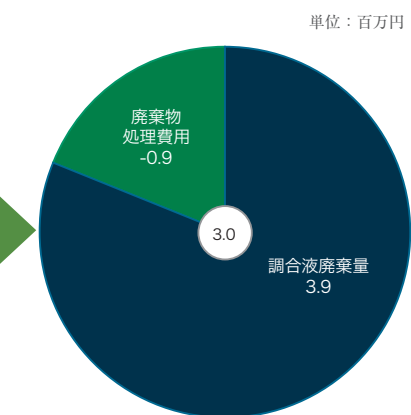


※「その他」には、金属、紙類、硬質樹脂容器、ドラム缶・一斗缶、ペットボトル、可燃物・不燃物、フィルム樹脂・PPバンド、段ボール、汚泥、珪藻土が含まれます。

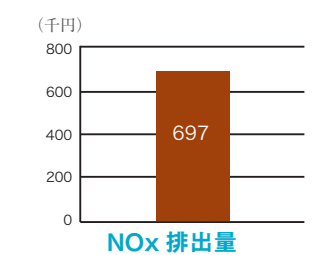
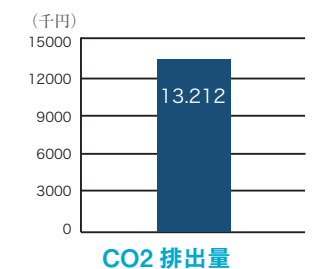
環境保全コスト



環境保全効果の金額換算



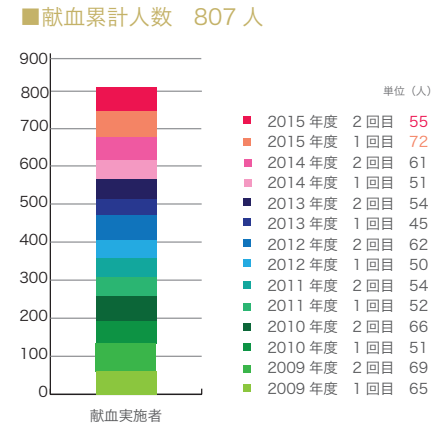
※ CO2とNOxの量は、原単位当たりの使用量から算出しています。



社会貢献活動

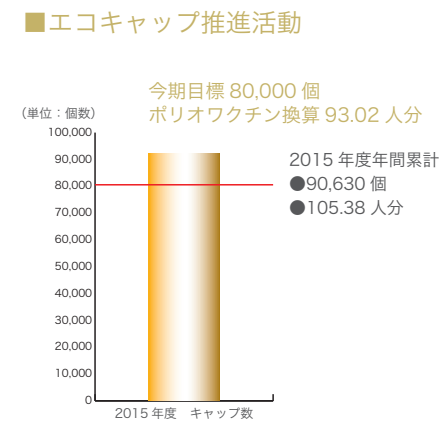
■献血活動

2009年度から群馬県赤十字血液センター様のご協力のもと、献血車による献血活動を開始し、2015年度までの累計で807人の献血を実施いたしました（2015年度よりハルナジョイパックも参加）。長年の協力に対し日本赤十字社より感謝状を授与されました。今後も定期的に続けていきます。



■エコキャップ活動

ペットボトルのキャップで世界の子どもたちを病気から守るエコキャップ活動に参加しています。2015年度までの累計で493,729個のキャップをNPO法人エコキャップ推進委員会に寄付いたしました（キャップ860個でポリオワクチン1人分）。



■地域清掃活動

地域環境保護の一環として工場横の河川や用水路の清掃活動を行っています。

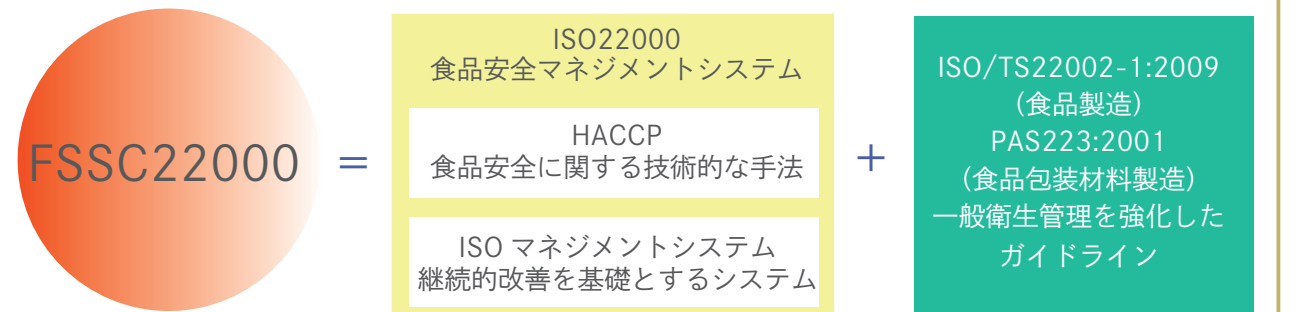


品質管理

創業以来、品質管理部門を設け、商品の安全性を維持、管理する体制を徹底しています。2006年にハルナプラントにおいて総合衛生管理製造過程（HACCP）承認を取得し、製造ラインの衛生と製品の安全性に継続して取り組んでおります。その取り組みを基本としてPDCAを回し、より良い環境づくりと仕組みを構築していくことで2015年にハルナプラントで食品安全マネジメントシステムのグローバルスタンダードであるFSSC22000の認証を取得しました。総合衛生管理に基づいた取り組みやシステムは、グループ全体で取り組むことで飲料の製造工場として安全性を確保しています。そして、グループ全体でグローバルスタンダードのFSSC22000の認証取得に向け着手しており、これからもお客様に安全な商品をお届けできるよう努めております。

FSSC22000 とは

食品安全マネジメントシステムの国際規格であるISO22000と、それを発展させたISO/TS22002-1（またはISO/TS 22002-4）を統合し、国際食品安全イニシアチブ（GFSI）が制定したベンチマークの承認規格です。世界の大手食品流通業や大手食品製造企業様が取引先に認証取得を求めているグローバルスタンダードです。



未来構想

～より良い暮らしのために、より良い政策を～

昨年10月に各職場、各地域の代表者約20名で構成する未来構想委員会が立ち上がりました。私たちの暮らしの中で、仕事に身を置く時間は非常に大きなウエイトを占めます。そういった中で最良の健康状態を維持し、精神衛生の向上を目指すため、「より良い暮らしのために、より良い政策とは」をテーマに協議していくことになりました。

昨年11月に全社員にアンケートを行いました。その結果、元気なうちはいつまでも働きたいとの回答を7割以上の人から得ました。働きたい人が1日でも長く働けるようにするために何が必要なのか、考えられる課題について以下のように集約し、委員会の各チームにて検討をしています。

- ① 健康についての課題…食事の栄養の偏り、喫煙
- ② 環境についての課題…職場の暑さ、寒さや人間関係
- ③ 業務についての課題…年を取ってからの体力、視力、聴力、記憶力等の対応
- ④ 技能についての課題…仕事を続けるための知識、技能

①健康の問題に対しては、委員会の中間報告で、快適な食事スペースの確保と、健康食の提供が提言されました。高崎、榛東、みなかみ、和歌山の各拠点において、カロリーコントロールや、雑穀米の使用を試みた新メニューの提供がスタートしました。また、新しい食堂スペースの整備も行いました。



②環境の問題に対しては、工場の労働環境の改善のため、群馬高専と共同で吸排気及び熱源、空気の淀みのマップ化に取り組んでいます。今後、専門家の意見も参考に最適な改善策を見つけ出し、必要な設備投資も含め検討する予定です。



③業務の問題に対しては、個人のキャリアアッププランの作成を支援し、セカンドキャリアについて、50歳、55歳、60歳といった節目の年に面談をすることで、将来のプランを実現するための方策や問題点を共に解決していく制度を検討しています。

④技能の問題に対しては、個々のキャリアアッププランの作成と共に、現在の資格取得支援制度の活用や、各種講習会、通学による教育機会の提供などを検討しています。また、各職場に必要な書籍を洗い出し、自由に閲覧できる環境整備を検討しています。

ワークライフ・バランス

～仕事と生活の調和～

「私はどう生きたいのか」「私はどんな人間でありたいのか」一人ひとりに問いかけ、明確化してもらい、会社でできる支援をしていく。そのためのニーズを掘り起こし、適切な支援へ結び付けていくことがハルナグループの重点課題の一つであるととらえています。もちろん、ワークライフ・バランスの実現には、社員にも具体的な行動が要請されます。職場の一員として、自らの働き方を見直し、時間制約の中でメリハリのある働き方に努める。また、将来を見据えた自己啓発・能力開発に取り組むとともに、一人ひとりが個々人の多様性を理解し、互いに尊重し合うことを通して人財育成に取り組みます。

■就労による経済的自立が可能な社会

◎正社員登用制度の導入

現在準社員として働いている人について、子育てや、家族の介護などの諸要因が変化した場合や、新たにチャレンジする意欲が湧いてきた場合に対応して、正社員登用のための社内手続きを明確化しました。

◎退職金制度の見直しと企業年金の検討

現在の退職金制度について、今一度点検を行い、新たな支給シミュレーションにもとづく制度改定を計画しています。併せて、国の年金制度に過度に依存しない企業年金制度に移行する計画を進めています。

■健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

◎残業時間削減対策

現状の問題点を洗い出し、職場の改善を進めていくために、未来構想委員会で各職場、各地域の代表者が意見を出し、検討していきます。

◎喫煙対策

社員の喫煙率を下げるために、いかにしたら禁煙活動を成功させることができるかについて未来構想委員会にて、検討していきます。

■多様な働き方・生き方が選択できる社会

◎定年制廃止

働きたい人が1日でも長く働けるようにするための施策を未来構想委員会で検討していますが、その提言を受けての必要な体制が整い次第、定年制度を廃止する予定にしています。

◎介護による休業等

今後介護のための休業や、短時間勤務の需要が急速に拡大することが想定されることから、現在の介護休業制度の見直しと、必要な制度設計を進める取り組みを推進します。

ビジネススクール

働きやすい職場づくり～社員育成～

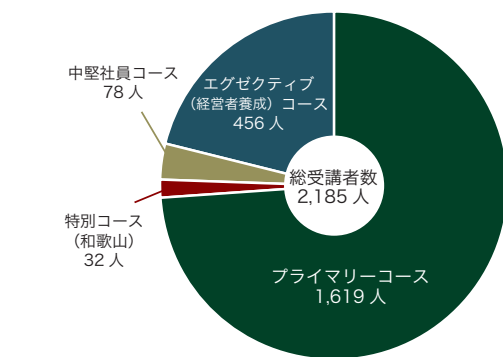
ハルナグループは創業時より、企業価値を生み出す人材の育成にこだわり、力を注いでまいりました。そして、体系的知識の習得と自分の専門分野以外への見識を高めることを目的として、2005年4月にビジネススクールを開講いたし11年間続いています。コースは、経営者養成コースから、中堅社員コースやプライマリーコース、合宿ウインタースクールなどがあり、2015年からは役員が自ら現場に出向き講師をする特別講座まで、幅広くスクールを展開し「企業価値を創造する人材育成」を推進しております。また、社員の自己啓発を応援するため、資格を取得する支援を行っています。資格の取得は個人の能力の証明となるだけでなく、業務に対する意識の高揚、技術力の向上にもつながります。受験対策講習の受講費用を負担したり、受験料を負担するなどの形で従業員の資格取得を支援し、また保持している資格により手当が支給され、自己啓発意欲をバックアップしています。

■ 2016 年度 ビジネススクール組織体制

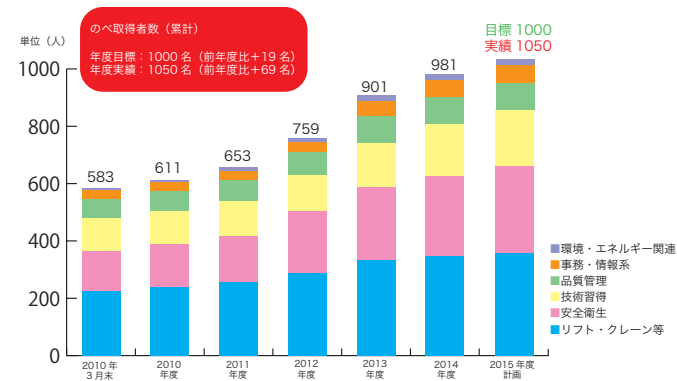
理 事 長：青木 清志 校長兼理事：須齋 嵩 副理事長：菅谷 重信 専務理事：中澤 幹彦
理 事：青木 麻生 理 事：栗原 健一 理 事：古市 直也 理 事：藤井 満

■ビジネススクール受講者人数（年間累計）

※ 2015 年度累計受講者数 17,528 人（2005 年開講より）



■資格取得支援



客員教授紹介（講義開催順、役職は当初）

田村 泰彦 氏	群馬大学名誉教授 国士館大学経営学部教授	丹治 保積 氏	(株) ネットパートナーズ本部長
佐野昭八郎 氏	三菱商事 (株) 産業機械本部元本部長	小出 信介 氏	小出公認会計士税理士事務所所長
松島 茂 氏	東京理科大学大学院教授	津田 晃 氏	野村証券 (株) 元代表取締役専務
江口 文陽 氏	高崎健康福祉大学教授	杉山 学 氏	群馬大学教授
岡 俊明 氏	サッポロビール飲料 (株) 元代表取締役社長 群馬大学客員教授	下田 祐紀夫 氏	群馬工業高等専門学校教授
須齋 嵩 氏	群馬大学客員教授 宇都宮大学教授	野口 恒 氏	ジャーナリスト
岸田 考弥 氏	中京大学教授	鈴木 守 氏	群馬大学前学長 上武大学学長
岸井 雄作 氏	毎日新聞東京本社編集委員	梅野 匡俊 氏	横浜国立大学講師 青山学院大学客員教員
長谷川泰彦 氏	群馬県産業支援機構専務理事	池永 裕 氏	前橋工科大学教授
水上 久忠 氏	人材形成研究所所長	鹿島 保宏 氏	鹿島エレクトロ産業 (株) 代表取締役社長
横田 哲也 氏	カゴメ (株) 研究開発部部長	和田 一廣 氏	和田マネイジメント代表取締役社長
小林 欣司 氏	群馬銀行元支店長	井口 正昭 氏	(株) 西友元取締役 (株) スミス元代表取締役社長 (株) そごう元取締役 食品流通研究所会長 コーネル大学講師
森田 茂 氏	丸紅マシナリー元代表取締役社長	有田 喜一 氏	群栄化学工業 (株) 代表取締役社長
財部 誠一 氏	経済ジャーナリスト	常盤 文克 氏	花王 (株) 元代表取締役会長
杉山 喜久雄 氏	カゴメ (株) ユニットディレクター	深山 隆 氏	味の素ヘルシーサプライ (株) 代表取締役社長
杉 伸一郎 氏	ヨークマート (株) 元代表取締役社長	渡辺 幹夫 氏	グローイング・シーズ代表取締役社長
後藤 新 氏	元群馬県議会議員	青木 清志 氏	ハルナグループ創業者 ハルナビレッジ (株) 代表取締役会長
寺石 雅英 氏	大妻女子大学教授 群馬大学名誉教授		
三浦 眞吾 氏	(株) NHK コンピュータサービス元代表取締役社長		

エグゼクティブコース（経営者養成コース）

※ 2015 年度開講済みのカリキュラム

開 講 日	講 師	テーマ
4 月 14 日	渡辺幹夫 先生	イオンのアセアン進出を支える商品力とローカライズ化
4 月 27 日	岡俊明 先生	新たなステージに向けてハルナグループの価値共創を探る
5 月 25 日	理事長 青木清志	「2035 年」 これからの 20 年
5 月 26 日	池永裕 先生	地球温暖化と対応策
6 月 29 日	理事長 青木清志	ハルナの未来をどのように考え、創っていくのか
7 月 30 日	大橋祥男 先生	多様化する 21 世紀
8 月 5 日	理事長 青木清志	未来構想「敵を知り己を知れば百戦危うからず」
10 月 2 日	有田喜一 先生	地域経済論
10 月 26 日	常盤文克 先生	イノベーションとこれからのモノづくり
10 月 28 日	小出信介 先生	ハルナグループ戦略及び実務への提言
11 月 30 日	理事長 青木清志	日本国への提言
1 月 25 日	理事長 青木清志	第 1 期・20 年の経過をめぐる総評&これからの課題①
1 月 27 日	岡俊明 先生	企業経営研究「セブンイレブンにみるマーケティングに学ぶ」
2 月 29 日	理事長 青木清志	第 1 期・20 年の経過をめぐる総評&これからの課題②
3 月 28 日	理事長 青木清志	経営の本質はどこにあるか

社員の感想～ビジネススクールを受講して～

ビジネススクールを受講し、改めて「私たち食品製造現場で働く者にとっての課題」について、自問自答しました。お客様が何の疑いもなく安心して、赤ちゃんから高齢者まで口にいただける食品を、私たちが自信をもって工場から送り出すことにつきる、と思います。その安全な食品づくりをするために大切なことの第一歩は、“人づくり”です。ハルナグループのビジネススクールは、社員一人ひとりの能力を最大限に高めるための各種セミナーがあり、“人財”育成という観点から私たち社員の成長と食品づくりに対する情熱を最大限支援していただける環境であると思います。



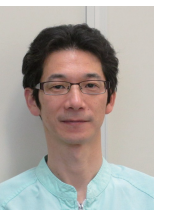
ハルナジョイバック株式会社
製造ユニット プラントマネージャー
前山久己

当社のビジネススクールは、ビジネスを基礎から体系的に学ぶことができるのをはじめ、自分自身の経験や過去の成功体験だけではなかなか解決できないビジネス上の課題に関して、その解決の糸口になるような考え方を学べる非常に有益な場であると感じています。それと同時に、常に考えを深めていく意識が根付いたため、仕事への取り組み方に対して自信を持てるようになったことも収穫の一つだと思っています。これから激動の時代を迎え、ますますグローバル化社会になっていきます。そのような環境下では自らの視点で物事を捉え、分析し、実践し、検証を繰り返すことで最適解を導き出せる能力が個々のビジネスパーソンには必要となります。その自らの視点がより精度と感度の高い視点となれるよう、これからもビジネススクールに参加し学んでまいります。



HARUNA 株式会社
東京営業部 シニアマネージャー
桂 仁志

ビジネススクール開講以来、多くの講義に出席させていただいておりますが、講義の内容は業務に直結するものから、マーケティング論、リーダー論、財務・経理、はたまた世界情勢まで多岐にわたっており、講師の方々の経験談を踏まえ説明していただけるため、とても勉強になります。また、毎年開講されるウインタースクールでは各部署の責任者が集まり、会社の将来について真剣にディスカッションしており、時には意見がぶつかり合うこともあります。一人ひとりの会社に対する熱い思いがひしひしと伝わり、非常に有意義な時間となっています。私自身もプライマリーコースでは講師をさせていただく機会があります。講義の内容をうまく伝えることは難しく、試行錯誤しながらですが、とてもよい経験をさせていただいております。これからもビジネススクールを通して多くのことを学びたいと思います。



ハルナプロデューズ株式会社
ハルナプラント品質管理セクション
マネージャー
横澤光洋